啓明児童クラブ 福井市朝谷町1-20(美山啓明幼稚園内)

上文殊児童クラブ 福井市生部町36-6(上文殊小学校内)

足羽東こども園 福井市東大味町10-1-1

足羽学園 福井市宿布町19-46-1

子ども発達支援センター フレンズあすわ 福井市大和田1丁目1607

フレンズみゆき 福井市御幸4丁目106-2

フレンズどれみ 吉田郡永平寺町松岡神明1丁目128

足羽ワークセンター 福井市栂野町20-5

足羽サポートセンター 福井市米松2丁目6-28

福井市御幸4丁目1806

スマイル 福井市和田東1丁目2105

カラフル 福井市林町62-3

あすわ相談支援事業所リアン 福井市米松2丁目6-28

足羽更生園 福井市宿布町19-46-1

あすわ第1/あすわ第2/あすわ第3 福井市栂野町20-5(代表所在地)

愛全園

福井市丸山町40-7

足羽利生苑 福井市栂野町20-7

グループホーム美山 福井市美山町6-1

福井大東包括支援センター(ほやねっと大東) 福井市丸山町40-7 愛全園3F



あすわ

「生きる」に、伴走し続ける。

社会福祉法人 足羽福祉会 www.asuwafukushikai.jp TEL.0776-41-3108 FAX.0776-41-3199



ごあいさつ

国際的な不安定さが増す一方で、

国内では新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行して1年が経ちました。 またこの1年は、当法人として新たに第V期中期事業計画を策定した1年目でもありました。 その前年度にSDGs宣言をした私たちは、事業方針でもある

「利用者様と共に」「地域と共に」「職員と共に」に「地球と共に」を加え、

3年後のありたい姿として、以下の目標を立てました。

利用者様と共に ――

一人ひとりの夢や願いを実現するために、連携のもとでさまざまなチャレンジがなされており、 成功事例がたくさんある。

地域と共に――

地域の課題に対して協働して取り組み、地域からなくてはならないパートナーとして認識されている。

職員と共に ――

働きがいと働きやすさの実現により、ここがよかった!と実感できている。

地球と共に ――

CO2排出の削減が進み、循環型事業モデルに取り組んでいる。

経営基盤の安定化 ----

さまざまな経営改善の取り組みにより、持続可能な収支差額が計上できている。

そうは言っても、実は感染症がまったくなくなった訳でもなく、次の一歩を踏み出すには、逡巡と勇気が必要な1年でもありました。慢性的な人手不足で、職場内コミュニケーションがとりづらく、よりよい組織作りに取り組む中での大きな壁にも直面しました。しかし隣の石川県をはじめとする能登半島地震では、福祉施設や地域社会が甚大な損害を被りましたが、物的人的な支援を通して、改めてつながりと本質をとらえることの大切さを学びました。人が生きていく上で、それを支えていく上で、本当に必要なことは何なのか?私たちは歩を止めてはなりません。この1年の試行錯誤を、アニュアルレポートとしてまとめさせていただきました。私たちはこれからも考え続け、行動し続けます。誰もが安心して尊重し合いながら生きていける共生社会の実現を目指して。

合言葉は「牛きる」に、伴走し続ける。

令和6年5月

理事長 髙村昌裕

01

ごあいさつ

03

法人理念/職員行動指針

05

ASUWA2030/第V期中期事業計画

07

令和5年度 あすわニュース

09

法人概要/決算報告

11

13

事業所報告

子ども福祉部門

15 啓明児童クラブ/上文殊児童クラブ

Contents

- 16 足羽東こども園
- 17 足羽学園
- 18 子ども発達支援センター フレンズあすわ フレンズみゆき/フレンズどれみ

障がい者福祉部門

- 19 足羽ワークセンター
- 20 足羽サポートセンター
- 21 パステル
- 22 スマイル
- 23 カラフル
- 24 あすわ相談支援事業所リアン
- 25 足羽更生園
- 26 あすわ第1/第2/第3

高齢者福祉部門

- 27 愛全園
- 28 足羽利生苑
- 29 グループホーム美山
- 30 福井大東包括支援センター (ほやねっと大東)



共に生き、共に集う、 光を求めて。

職員行動指針

私たちは、人として、福祉専門家として、「共に生きる人」を目指し、 利用者様と共に、地域と共に、 職員と共に歩みます。

パーパス | 足羽福祉会の存在意義 だれ一人取り残すことなく、 途切れない支援を行い、 地域社会から生きづらさをなくす。

ミッション | 日々果たすべき使命

仲間と共に、福祉の専門家として 常により良い支援を考え、行い、改善する。 地域と福祉のより良い未来を志向する。

ビジョン | 実現したい未来 共に生きている。 それがふつうの世の中に。



ASUWA 2030 理念の実現を目指す長期ビジョン

- **01** 住み慣れた地域で「自分らしく」生きることの実現。
- 02 共生社会実現に向けて地域、 社会の課題解決を図る行動。
- 03 成長し、支え合い、 笑顔あふれる職場にする働き方改革。

─ 新たな3か年のスタート ─第 V 期 中期事業計画 2023 ~ 2025

事業計画テーマ

ワクワク × つながる = 新しいウェルビーイングのかたち

5つの視点	3年後の姿(目指す状態像)	令和5年度の実績		令和6年度の計画	令和7年度の計画	2030年に向けた SDGs目標
利用者様と 共に	一人ひとりの夢や願いを実現するために、連携のもとでさまざまなチャレンジがなされ、たくさんの成功事例ができている。	①尊厳・権利擁護はじめ本人中心の福祉に関する学びを深める。 ②一人ひとりの想いや願いの適切なアセスメント(着手、見直し) ③実現のための話し合いを関係者、チームで取り組む。	取り組み継続 取り組み継続 サービス実践報告会を実施	①成功事例の創出と発表等による事例共有。 ②個々のニーズへの専門的な対応スキルの向上。 ③実現のための話し合いを関係者、チームで取り 組む。	①成功事例の積み上げと発表等による事例共有。 ②種別や部門、年齢等にかかわらず、一人ひとりが 居心地の良い居場所作り。 ③実現のための話し合いを関係者、チームで取り 組む。	1 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8
地域と 共に	地域の課題に対して協働して 取り組み、地域からなくてはな らないパートナーとして認識さ れている。	①関係者(地域住民、学生、研究機関等)を増やし、継続的な話し合いを通じた地域課題の共有。 ②地域住民の目線で課題解決に向けた取り組み。 ③災害時における法人の役割(福祉避難所設置、DWAT派遣等)を発揮できる体制整備。	取り組み継続 取り組み継続 取り組み継続	①協働による成功事例の創出と事例共有の発信。 ②地域住民の目線で課題解決に向けた取り組み。 ③地域住民と共に災害時の福祉避難所対応訓練 の実施。	①協働による成功事例の創出と事例共有の発信。 ②地域住民の目線で課題解決に向けた取り組み。 ③地域住民と共に災害時の福祉避難所対応訓練 の実施。	4 SORVERE 11 BABUSAB 12 つくられた 13 所収取り出版 17 ポリナーシブで 17 間を表現します。
職員と	働きがいと働きやすさの実現により、ここがよかった!と実感できている。	①確保:ブランディング推進のもと、法人に共感する人材の確保。 ②育成:法人研修プログラム等を定着させ、学びやサービスクオリティ、改善意欲の向上。 ③定着:職員満足度調査などを基にした職場環境、業務効率の改善(ICT・介護ロボ等活用、経営ガバナンス強化など)。	法人CM放送開始 取り組み継続 ICTにおける業務改善に 向けたインフラ整備完了	①確保:ブランディング推進、DE&I推進により、多様な人材が確保できる採用計画の構築と運用。 ②育成:意欲と適性を活かせる業務経験へ導くためのタレントマネジメント構築。 ③定着:職員満足度調査などを基にした職場環境、業務効率の改善(ICT・介護ロボ等活用、経営ガバナンス強化など)。	①確保:ブランディング推進、DE &I推進により、多様な人材が確保できる採用計画の構築と運用。 ②育成:一人ひとりの能力向上による、高い労働生産性の発揮。 ③定着:3年間の取り組みにより、一人ひとりが輝き、さらに安心とやりがいをもって働き続けられる職場環境作り。	3 FATOAL BRESHEE 4 AAQUE 5 FERTAGES 8 BESTA
地球と 共に	CO2排出の削減が進み、循環型事業モデルに取り組んでいる。	①法人内電球の全LED化。 ②既存車両のリース契約への切替検討(助成 車輛除く)し、新たな車両のEV、PHVまたは HV車への切替を推進。 ③有機廃棄物の堆肥化に向けた取り組み。	ほぼ完了 農業をとおした 循環型事業モデルの継続	①既存設備は電気使用方法の検討(ソフトによる 制御等)、新たな施設整備は太陽光発電、蓄電 設備の導入を検討。 ②既存車両のリース契約への切替検討(助成車輛 除く)し、新たな車両のEV、PHVまたはHV車へ の切替を推進。 ③減プラ、脱プラに向けた計画の具体化。	①既存設備は電気契約の検討(再エネ100%電力プラン)、新たな施設整備は太陽光発電、蓄電設備の導入を検討。 ②既存車両のリース契約への切替検討(助成車輛除く)し、新たな車両のEV、PHVまたはHV車への切替を推進。 ③給食材料(野菜)の自給率を高め、食の循環型事業モデルの確立。	12 今年春日 12 今年春日 13 京都京都に 13 京都京都に (本)
経営基盤の 安定化	さまざまな経営改善の取り組 みにより、持続可能な収支差 額が計上できている。	①法人ブランディングの推進(利用者様から選ばれる、人材採用・定着、地域広報)。 ②適正人員配置とサービス内容の充実により、全事業で稼働目標を達成。 ③KPI設計による成果の見える化、PDCAで改善させる仕組化など管理職のマネジメント力強化の取り組み。	新たなシンボルマーク・ロゴに よる広報ツールの整備完了 取り組み継続 KPI目標の適正化を 図りつつ取り組み継続	①法人ブランディングの推進(利用者様から選ばれる、人材採用・定着、地域広報)。 ②適正人員配置とサービス内容の充実により、全事業で稼働目標を達成。 ③管理職のマネジメント力強化の取り組み継続。	①法人ブランディングの推進(利用者様から選ばれる、人材採用・定着、地域広報)。 ②適正人員配置とサービス内容の充実により、全事業で稼働目標を達成。 ③マネジメント力強化による組織生産性向上の取り組み。	

2023 ASUWANEWS

令和5年度に法人で起こった出来事をピック アップ。未来の福祉を創造する福学連携や 2年ぶりの開催となった足羽福祉会の美術 展・○(えん)展の他、コロナ禍で自粛傾向 だったイベントが復活、さらに年度末には経 営デザイン認証(ランクアップ認証)の認証を 受けたりと話題の多い1年となりました。また 年始早々に発生しました能登半島地震につ いては職員を派遣するなど法人全体で被災 された方々の支援を行っております。

地域の学校との 福学連携が加速!

▲ 和5年度は例年行っている小学校への福祉授業に加えて **ア** 地域の大学との連携が多くあった1年にもなりました。

福井大学とは、「福井の企業経営×SDGs」をテーマにした企 業訪問の一環で足羽福祉会を訪れ、法人の「SDGs」の取り組 みを紹介しながらカラフルの利用者様との「ボッチャ体験」で交 流を深めました。その後、参加した学生による発表会が福井大 学で開かれ、学生ならではの斬新な視点などが伺えました。

また、PBL(Project Based Learning)と言われる問題解決 型学習の機会提供も行い、フレンズあすわでの障がい児支援 を通じて、福祉における課題をどう具体的改善に繋げていく か、考えを発表するイベントにも参加しました。

福井県立大学とも、福祉のまちづくりに向けた意見交換などを 行い、今後も具体的な協力を仰いでいきながらより良い福祉 を創造していきます。



「経営デザイン認証 (ランクアップ認証) に決定!

冷と 営デザイン認証とは、組織が作成した「経営デザイン 経営の設計図」を第三者(認証委員会が認定した専門 審査員)が審査を行い、一定レベルに達した組織を経営デザ イン認証委員会が認証する制度です。

社会福祉法人 足羽福祉会では令和6年度後期スケジュール にエントリーし、見事認証資格を取得しました。申請にあたっ て法人のプロジェクトチームメンバーを役職者を対象に公募 し、挙手いただいた職員と一緒に今後の法人のあるべき姿や そこに至るプロセスについて、月2回のペースで議論を重ねま した。

作り上げた設計図が絵に描いた餅にならないよう、チャレンジ

できる「人づくり」「組織づ 力的に進めることに重点 をおいて、そこで生まれる 人間力やチーム力を利用 者様や地域社会に還元 していけるよう経営に活 かしていきます。



個性や感性が輝く、 えん展2024開催!

足 羽福祉会の福祉サービスを利用されている利用 看塚か 制作した作品を展示する○(えん)展が2年ぶりに開催 されました!12月13日~17日の5日間、福井市美術館で開催 された催しは、利用者様の個性あふれる素敵な作品がたくさ ん展示され、中には作品を購入したいというお声をいただくほ ど素晴らしいものでした。

来場者には、昨年度開催したあすわのこども展とはまた違っ た創造的な世界を感じていただけたと思います。

また、開催にあたっては法人の職員が中心になって企画と運 営にあたり、これまでなかったような新たな試みにもチャレンジ していただき自身たちの達成感にも繋がりました。



法人ブランディングの本格展開!

相をもっと身近で、魅力あるものにしていくブランディン がか令和5年度より本格展開され、法人が大切にしてい ることをパーパス(存在意義)・ミッション(果たすべき使命)・ ビジョン(かなえたい未来)ごとに明文化し、それが正しく、 分かりやすく社会に伝わるよう法人カラーをイエローに統一 し、ロゴマーク・シンボルマークもリニューアルしました。

単独としては法人初となるTVCMも創立記念日である10月 1日より放送を開始し、福祉のリアルをドキュメンタリーで伝える ことで福祉全体の啓蒙を図りつつ、人手不足やコロナ対応で 多忙な業務に追われる、職員をはじめ福祉に関わる人を応援 することを目的にしています。「福祉は」編・「世話人」編・ 「グループホーム美山」編の3パターンがFBCとインスタグラム



被災地への職員派遣を実施

▲ 和6年1月1日に起こった能登半島を震源にした能登半 島地震の被災者支援に、福祉関係団体と協力しながら 法人職員を派遣しました。福祉避難所の立ち上げや福祉ニー ズの高い方々への対応といった「避難生活を支える」基盤づく りを目的とする福井県DWATの派遣協力をはじめ、被災地か らの要介護者の避難受け入れ、1.5次避難所での本人や家 族の状況聞き取り、2次避難先への調整業務を担うケアマ ネージャー派遣など被災地支援を行っています。今後も職員の 派遣応援を継続し、1日でも早い被災地の復興と、被災された 方々へのケアに努めていきます。

新型コロナウイルスの 5類移行に伴い 各種イベントが復活!

5 月に新型コロナウイルスが5類に移行したことで、制限していた各種イベントを感染対策を徹底しながら復活させて いきました。

足羽更生園・足羽学園では利用者様参加のBBQが行われ、 焼肉・焼きそば・かき氷などといった食事に加え、風鈴作りや ヨーヨー釣りができるコーナーもあるなど、大盛り上がりでし た。8月には福井市中央公園で開催された野外フェス「ワン パークフェスティバル2023 | に足羽ワークセンターが運営する あすわの実が出店し、連日35度を超える猛暑の中、おいしい フードを素敵な音楽が流れる中で提供しました。そして、9月に は足羽利生苑と足羽ワークセンター・足羽サポートセンター・ パステル・スマイル・カラフル・あすわ第1・2・3合同による「あす わ祭り|が大復活!オープニングの太鼓、そしてよさこいで賑や かにスタート。4年ぶりの開催とあってテントに入りきらない程 の地域の方々に、売り切れ続出の販売ブースなど、大盛り上が りの1日になりました。







ASUWA NEWS 2023



足羽福祉会は、赤ちゃんからお年寄りまで安心して利用できる 総合福祉事業として、さまざまな施設やサービスを通して、 地域に開かれた、地域に信頼される福祉を目指しています。

法人概要

名 称	社会福祉法人 足羽福祉会
所 在 地	〒910-2178 福井県福井市栂野町20-7
事業內容	第一種· 第二種社会福祉事業(保育·障害·高齢)· 公益事業
理事	理事長 髙村 昌裕 常務理事 嶋田 富士男 理事 中村 まゆみ 理事 山形 裕之 理事 坂口 昌宏 理事 岩本 昌雄 理事 吉村 宜利子
職員数	560名(正規職員・パート職員)
総収入	3,199,346千円(令和5年度実績)
主な資格の 保有職員数	看護師·准看護師 27名 社会福祉士 39名 介護福祉士 136名 保育士 94名 調理師·栄養士 62名
職員満足度向上の取り組み	社員ファースト企業認定(福井県) 子育てファミリー応援企業認定(福井市) ふくい女性活躍推進企業+登録(福井県) 職員健康づくり宣言(協会けんぽ)

決算報告

貸借対照表	令和6年3月31日現在 (単位:千円)
流動資産	950,215
固定資産	3,153,268
資産 合計	4,103,484
流動負債	496,854
固定負債	548,604
負債の部 合計	1,045,459
純資産の部 合計	3,058,025
負債•純資産 合計	4,103,484
	·

事業活動計算書	自令和5年4月1日 至令和6年3月31日 (単位:千円)
サービス活動収益計①	3,123,653
サービス活動費用計②	3,323,822
サービス活動増減差額③=①-②	-200,168
サービス活動外収益計④	12,948
サービス活動外費用計⑤	3,972
サービス活動外増減差額⑥=④-⑤	8,976
経常増減差額⑦=③+⑥	-191,192
特別収益計⑧	62,743
特別費用計⑨	47,578
特別増減差額⑩=⑧-⑨	15,165
当期活動増減差額⑪=⑦+⑩	-176,026
前期繰越活動増減差額⑫	2,264,220
当期末繰越活動増減差額③=⑪+⑫	2,088,194
その他の積立金取崩額⑭	16,400
その他の積立金積立額⑮	5,000
次期繰越活動増減差額⑯=⑬+⑭-⑮	2,099,594

データで見る足羽福祉会



法人ブランディングに関わるもの

職員数

リクルート関連エントリー数



(2024年3月時点)

34人 - 14人

(2023年度実績)

「あすわの木」・ 「CARAMON」利用者数、 「あすわの実」お弁当販売数

あすわの木 23,203名

caramon 17,167名

^{弁当販売数} 31.708 個

11

(2023年度実績)

受入人数

実習 200人

インターンシップ

ボランティア 343人



採用者数(新卒•中途)



52 λ

(2023年度宝结)

ホームページ アクセス数

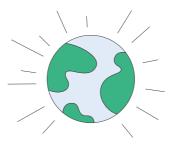
70,885件

(月平均5,907件)

(2023年度実績)

その他の取り組みに関わるもの

展開事業における SDGs関連項目

























コピー用紙の消費枚数

約8%の削減

1,616,200枚 ─ 1,488,034枚 育休取得率

女性 100%

男性 33%

(2023年度実績)

月平均残業時間

(2023年度実績)

有給休暇取得率



11%

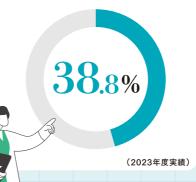
(2023年度実績)

障がい者雇用

雇用率 4% 雇用数 18名

(2023年度実績)

女性管理職割合



外国人雇用者数• 留学者受け入れ数

14_人

(2024年3月時点)

能登半島地震支援 派遣職員(1月~3月)

のべ 37名



一つひとつの未来、つないでいきます。

子ども福祉部門

あっという間に過ぎる「子どもたちの今」。そんな大事な時間を共に過ごす私たちは、遊びや学びを通して、やさしく、ちから強く、児童一人ひとりの「らしさ」を引き出すために、ご家族や関係機関と連携しながら支援を続けています。

啓明児童クラブ/上文殊児童クラブ

●放課後児童クラブ

足羽東こども園

●幼保連携型認定こども園

足羽学園

- ●福祉型障がい児入所施設
- ●短期入所

子ども発達支援センター フレンズあすわ

- ●児童発達支援
- ●放課後等デイサービス
- ●保育所等訪問支援
- ●短期入所
- ●地域障害児支援体制強化事業

フレンズみゆき/フレンズどれみ

●放課後等デイサービス

思いに、悩みに、喜びに、夢に、 向き合っていく。

障がい者福祉部門

利用者様それぞれが持つ「ちから」に気づき、引き出し、輝かせること。地域に暮らし、社会の一員として人生を自分らしく楽しむための支援をすること。私たちは、地域社会との交流を通して利用者様一人ひとりが望む暮らしの実現に取り組んでいます。

足羽ワークセンター

●就労継続支援B型

足羽サポートセンター

●就労継続支援B型

パステル

- ●自立訓練(生活訓練)
- ●就労移行支援 ●就労定着支援

スマイル

●生活介護

カラフル

●生活介護 ●共生型生活介護

あすわ相談支援事業所リアン

- ●計画相談支援 ●障がい児相談支援
- ●地域移行/地域定着支援

足羽更生園

- ●施設入所支援 ●生活介護
- ●短期入所 ●日中一時支援

あすわ第1/あすわ第2/あすわ第3

●共同生活援助 ●短期入所

これからの、 みずみずしい暮らしのために。

高齢者福祉部門

長い年月を過ごし、ご家族や社会への責任を 果たしてきた高齢者の方々。そんな皆さまと いっしょに、若者のように笑い、泣き、語り、 遊び、感動したい。親しみのある地域で、これ からも新しい思い出をつくっていただけるよう お手伝いしていきます。

愛全園

- ●特別養護老人ホーム
- ●認知症対応型共同生活介護
- ●短期入所生活介護 ●通所介護
- ●居宅介護支援センター

足羽利生苑

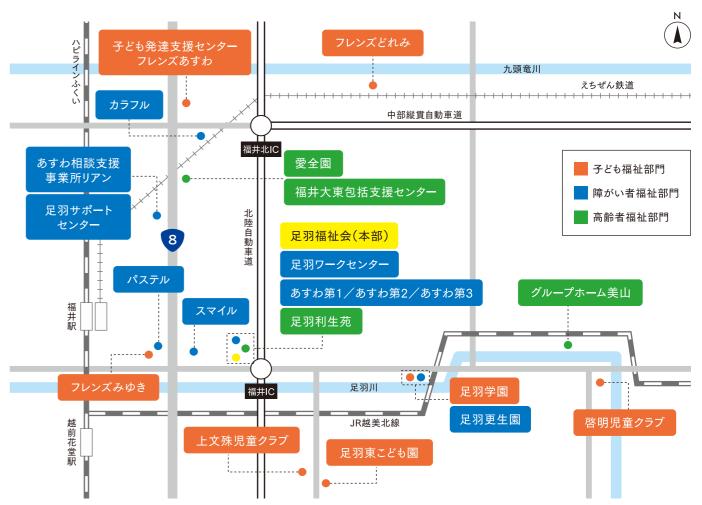
- ●特別養護老人ホーム
- ●短期入所生活介護
- ●通所介護
- ●居宅介護支援センター

グループホーム美山

- ●認知症対応型共同生活介護
- ●小規模多機能型居宅介護 ●共生型生活介護
- ●短期入所

福井大東包括支援センター (ほやねっと大東)

●相談支援



啓明児童クラブ 上文殊児童クラブ

啓明児童クラブ | 地域との繋がり

2023年8月、美山公民館との共催で2つのイベントを開催しました。一つは誰もが楽しめるスポーツとして「モルック教室」を開催しました。福井市から講師を招き、上文殊児童クラブと一緒にモルックの楽しさやルールを教えていただきました。開始早々難しそうな印象でしたが、至ってシンプルなルールで簡単にできるスポーツということが分かり、児童たちはチームー丸となって戦略を練り、対戦で勝った時は大盛り上がりでした。もう一つは「原子力科学館あっとほうむ:科学

実験隊による教室」を開催。実験を通して児童たちはシャボン玉の仕組みと気体の性質を学びました。水素ガスを使っての燃焼実験で爆発するシャボン玉を見たり、大きなシャボン玉の中に実際に入ってみたりしました。



啓明児童クラブ | 仲間との繋がり

夏休みや秋休みの長期休業中を利用して「ボウリング大会」や「芝政ワールド遠足」を開催しました。ボウリングは守年でチームを作り催行。初めて行っの表彰もあり、大いに盛り上がりましたが、また、大型バスに乗っていく遠足は初めてで、芝政へ向かう道中から屋外のアトラクションにたくさん乗り、レストランでの昼食後は館内の遊りで洗りなすることができました。



啓明児童クラブ | 次へ繋ぐ

法人全体で取り組んでいる「SDGs」について、今年度は児童たちが SDGsを実践しました。廃材を使った工作をした後に、出したゴミを

分別するという取り組みです。その分別が定着し、自分たちで判断しながら片付けができるようになりました。また、折り紙を無駄遣いすることが多かったので、広告チラシを使用し、紙飛行機などを作って遊びました。

次年度に向けた

取り組み



啓明児童クラブ・上文殊児童クラブは、昼間保護者のいないご家庭の小学生が対象。放課後及び長期学校休業中に児童に安心して過ごしていただきます。遊びなどを通して心身ともに成長できる場を提供することで、保護者の方が安心して勤務できるよう支援いたします。

上文殊児童クラブ | **たてわり遊びの充実**



児童クラブでは、高学年が積極的に職員のお手伝いや行事の進行を行うようになっています。また、低学年も高学年を慕い、運動遊びやゲーム等を教えてもらいながら遊んでいます。今後も、繋がりが深まる

ように環境を整えていきます。4月から小学校の卒業生(児童クラブ利用児童)が児童クラブを継続して訪問しています。今後も、児童クラブが子どもたちの心の拠りどころとなるように温かく見守っていきます。



上文殊児童クラブ | SDGsへの取り組みの継続

今年度は、市の出前講座「目標は850g!1人1日あたりのゴミ排出量を減らそう」を受講し、児童たちが職員と共に燃えるゴミと燃えない

ゴミの分別に取り組みました。特に低学年を中心にゴミ分別への意識が高まりました。 また、自分たちが出した廃品を利用して、カルタや飛行機、パソコン等の遊具づくりを行いました。物を大切にする気持ちや、児童の豊かな発想を十分に認めていきます。



_{上文殊児童クラブ}| <mark>地域との交流活動</mark>



コロナも5類となり、関係機関との交流活動を再開しました。児童クラブで地域の主任児童委員さんによる読み聞かせや言葉遊び、上文殊地区の地域の方による、筝の演奏会・体験会などを行っていただきました。また、小学校の体育館の借用も再開し、運動遊び(ドッジ

ビーやバドミントン等)を日々楽しみました。 また、福祉会の児童クラブとして、今年も年 5回の啓明児童クラブとの交流を行い、自 分の地域だけでなく美山地区の地域の方々 とのふれあいも深まりました。



DATA

[啓明児童クラブ]

児童の放課後や学校休業日の生活の場の提供と 健全な育成。仕事と子育ての両立支援。 対象利用者

対象利用者 美山啓明小学校または羽生小学校に通う児童 (1年生~6年生)

所在地 福井市朝谷町1-20(美山啓明幼稚園內) 管理者 LEX外が無シブノ」 事業内容 児童の放課後や学校休業日の生活の場の提供と 健全な育成。仕事と子育での両立支援。 対象利用者 ト文殊小学校に消引児童(1年年~6年年/人数

31名) 所在地 福井市生部町36-6(上文殊小学校内)

管理者 蠟塚 光男 (今和6年4月1日現在) 文殊山のふもと、四季折々の自然が感じられる当園。2022年春に竣工した新園舎では「自然活動、交流活動、たてわり活動、楽しい給食、体操教室、健康・安全活動」を掲げ、一人ひとりが自らを発揮し豊かな感性を持った子ども達が育っています。

子どもの安全対策における 取り組みの充実



子どもの安全対策として、送迎用バスへの安全ブザーの取り付け、および登降園管理や連絡帳・緊急連絡機能を備えた保育システムを導入しました。園児の登降園の状況や保護者からの連絡について、職員間の確認・共有が容易になり、職員の業務負担の軽減を図りました。また、機器の導入に合わせ、日々の人数確認や健康管理の徹底と共に、安全マニュアルの見直しも行うことで、職員の安全に関する意識の向上、保護者の安心にも繋がっています。



多くの保護者や家族が 園活動や行事に参加



参加人数の制限を無くし、多くの保護者や家族をこども園にお招きする機会を増やしました。特に、夏祭りや運動会・発表会など、子どもたちの成長を感じられる行事では、祖父母の参加も多くなり、喜びや感動の声が寄せられました。子どもたちも、たくさんの方々に自分の頑張る姿を見せることができたことで、一人ひとりの自信や達成感、次の活動への意欲に繋がりました。



食育活動!

楽しい給食の再開



CO HRICAGE XI

新型コロナウイルスの5類移行に伴い、少しずつ食育活動を再開しました。衛生面の配慮を継続しながら、クッキングやたてわり会食・バイキング給食など、楽しく美味しく食事をする工夫を多く取り入れました。また、当番活動も再開し、配膳や片付けなど、日々の給食に子どもたちが積極的に関わっています。地域や施設の方のご協力で、一緒に収穫した野菜などを使った献立も多く取り入れることができ、食材の大切さや感謝の心を伝えることができました。

子ども福祉部門

足羽東こども園



DATA

事業内容

幼保連携型認定こども園 (定員 1号:12名/2·3号:130名)

0~5歳児の乳幼児 所在地

福井市東大味町10-1-1

三上 登美子

(令和6年4月1日現在)

[啓明児童クラブ]

○令和6年度は登録利用者数が今までで最多、クラブ内が手狭になりますので、学校の体育館や校庭を有効活用し、安全な活動の場の提供に努めていきます。

○児童クラブが求められている役割の中で、世代を超えた 交流を行い、自分たちが住んでいる地域をもっと知って もらえるような地域交流会を定期的に実施していきます。

[上文殊児童クラブ]

放課後や長期休業日に、児童の個性や人権・養護面に十分配慮し安心・安全な場所を提供し、保護者が子育てと仕事を両立できるように支援を行います。 特に、防災・安全においては、1月の能登半島地震などを踏まえて安全計画を 見直し、タイムリーな訓練を行っていきます。また、小学校や地域とは、引き続き 円滑な情報共有を行い連携を深めていきます。活動状況においては、ホーム ページ等を通して地域に発信し、児童クラブの理解に繋げていきます。

次年度に向けた 取り組み 今期の研修で学んだことを活かし、職員とのコミュニケーションの充実や園児・保護者支援の改善に向けた接遇に取り組んでいきます。また、子どもたちと共に「SDGs」を意識した活動の実践を継続すると共に、今期に導入した保育システムを活用し、新たな保育記録の検討や保護者等への情報発信・ペーパーレス化への取り組みを行っていきます。



足羽学園



部門連携で育ちを支える

令和5年9月に未就学児が入所されました。次年度は就学を迎える にあたり、足羽東こども園(月・火曜日)、フレンズあすわ(木・金曜日) に協力を仰ぎ通園を開始しました。集団療育(こども園)、小集団療 育(児童発達)、個別の療育(学園)と、個々の機能を活かすことで、 最初は一人遊びが主でしたが、回数を重ねる中で周りを見ながら動 く姿が見られたり、他の子どもたちの声かけに応じたりするなど職員 も目を見張る成長が見られました。

「SDGs」を理解する取り組み

現在、世界的な取り組みとなっている「SDGs」を子どもたちにも知っ てもらい、自分たちのできる取り組みに繋げようと毎月の自治会にて、 「SDGs」の勉強会を開催しました。17個の目標を一つずつ取り上げ、 動画や職員が作成したイラスト等を見てもらいながら学びました。

また、自分たちでできる取り組みとして、 牛乳パックのリサイクルや、自分だけの エコバッグづくりを行いました。外出時 に道に落ちているゴミを見つけて 「SDGsじゃないね。ゴミはゴミ箱だ ね。」の声が聞かれるなど、子どもたち の中に意識が芽生え始めました。



現在、障がいのあるお子様の成長を支える仕組 みは増えた一方、社会的擁護や自閉スペクトラム 症など専門的支援ニーズは高まっています。私 たちは、利用者様が地域で安心して暮らせるよう、 ご家族・関係機関と連携しながら一緒に考えて いきます。

元気だ!頑張ろう! レクリエーション大会!

当法人子ども福祉部門(足羽東こども園・子ども発達支援センター フレンズあすわ)の利用者様と地域の特別支援学級の方をお招きし、 福井市東体育館にてレクリエーション大会を行いました。こども園 (9名)、フレンズあすわ(3名)、足羽第一中学校(1名)の方々に参加 いただき、玉入れや、風船運びなど、楽しく賑やかな時間を過ごしま した。また、地域のガールスカウト4名の方に、運営のサポートをして いただきました。最後に、作成した似顔絵ボードの前で記念撮影を 行い盛況で終えることができました。



事業内容 福祉型障がい児入所施設(定員20名) 短期入所支援(定員4名)

対象利用者 18歳までの知的に障がいのある子ども 所 在 地 福井市宿布町19-46-1

管 理 者 嶋田 富土男

(令和6年4月1日現在)

幼児期・学齢期のさまざまなライフイベントに保護 者の皆様と一緒に取り組んでいます。日々の悩み や課題などにも、ご本人の夢に向かうステップを 支援の専門職としてサポートし、関係機関と連携 しながら家庭と学校以外の第三の居場所づくりに 努めています。



あすわ児童発達支援センター

フェス開催!

地域交流の一環として、同フェスを実施しました。契約利用者様や保 護者様はもとより、地域の方々に参加していただけるイベントとして 企画しました。内容も参加者の方に体験型を用意し、私たちが普段 実施している支援の疑似体験や外部の方によるバンドのミニコン サート・シャボン玉パフォーマンス等を実施しました。合計100名以 上の方に来訪していただき、好評を得ることができました。



社会参加活動の充実

フレンズどれみは、開設時期が新型コロナウイルスの世界的な流行 時期と重なったこともあり、それ以降、事業所外での活動を制限の中 で行ってきました。令和5年5月の新型コロナウイルス5類移行後は、 地域の公共交通機関などを利用しながら、外出や社会体験の機会 を多く企画し、楽しみの中で多くの学びを経験していただきました。



楽しみながら「SDGs」!

フレンズあすわ・フレンズみゆきでは、寄贈いただいた「お野菜クレヨ ン」を使用して、活動の一つとして絵画などの作品づくりを行いました。 野菜などの収穫の際に廃棄される野菜の外葉などを再利用して生 成されたクレヨンを使用しての自己表現は子どもたちの楽しみの一 つとなっています。

子ども福祉部門

フレンズあすわ

フレンズみゆき

フレンズどれみ

子ども発達支援センター



DATA

[子ども発達支援センターフレンズあすわ]

①児童発達支援(定員12名) ②放課後等デイ サービス(定員10名) ③保育所等訪問支援
④短期入所(定員5名) ⑤地域障害児支援体

①就学前の児童(7歳未満) ②学齢期の児童 (6歳以上18歳未満) ③18歳未満の児童 ④当センターの利用者様 ⑤福井市内在住の方

福井市大和田1丁目1607

[フレンズみゆき] 放課後等デイサービス(定員10名)

学齢期の児童(6歳以 F18歳未満) 福井市御幸4-106-2

渡辺 浩基

「フレンズどれみ】 放課後等デイサービス(定員10名)

学齢期の児童(6歳以上18歳未満) 吉田郡永平寺町松岡神明1-128 渡辺 浩基

(令和6年4月1日現在)

次年度に向けた 取り組みます。 ○職員が安心して業務に臨めるように、業務負荷 軽減に取り組み、労働環境の改善を図ります。

次年度に向けた 取り組み

おかげさまで子ども発達支援センターフレン ズあすわは設置から10年が経過しました。こ れまでの多くの利用者様や保護者様と積み重 家族支援の充実を図っていきます。

ねてきた実績をもとに、さらにサービスの向 上を目指し、支援プログラムの明確化や追加、

取り組み

○子どもたちの声を大切にし、「やりたい」「こうし たい|を応援し、さまざまな経験ができるように

足羽 ワークセンター

利用者様自身が生活の中心者となって未来を選 択し「働きたい」「自立したい」という夢が実現でき るよう支援しています。個別支援計画を基に日常 生活を整え、利用者様のニーズや能力に応じた 社会経験の場を提供し、目標達成を実感いただ けるよう支援しています。

利用者様の「働きたい」という希望を実現し、豊か な社会生活が送れるよう個別支援計画を基に サービスを提供しています。企業での「施設外就 労 | も実施しており、社会体験活動にて一人ひとり が社会の一員だと感じられるよう支援しています。

2年間にわたる支援の取り組みをサービス実践報告会で発表しました。 後半の1年間は、これまでのスーパーバイザーからの学びをもとに自分 たちのみでの実践。支援する側も利用者様からたくさんのことを学ば

せていただき、利用者様と一緒に成長していることを実感しました。

有機廃棄物の肥料化に取り組み始めました。初年度は法人内厨房か

ら排出される野菜屑と、あすわの木のコーヒー粕を自然の力のみで発

酵させ、堆肥にすることができました。できあがった有機堆肥は足羽サ

ポートセンターの畑に使用したり、法人内のこども園に提供して、安

利用者様と共に職員も成長

地球に人にやさしい取り組み

心・安全な野菜づくりに活かされています。

障がい者福祉部門

足羽 サポートセンター



第16回セルプ 総合スキルコンテストに出場

- ●調理部門(A様·B様)優勝!
- ●わたしの主張部門(C様)第3位!

調理部門では、昨年度のリベンジで再出場しました。お互い協力しな がら手際よくチャーハンとスープを調理し、見事優勝を果たしました。 わたしの主張部門では、「ぼくは今ここで頑張っています」という題名 で、「私の仕事」をテーマに堂々と仕事に対する思いや、これからの 「頑張りたい」という気持ちを発表し、3位入賞という素晴らしい結果 となりました。

コンテストに参加することで利用者様はより一層努力し、スキルアッ プすると共に成長にも繋がりました。



県内イベント出店が充実してきました!

コロナ禍を乗り越え、開催中止となっていた各イベントが戻ってきま

外販ブランドの「あすわの実」として、「各種バラエティー弁当」や「糀 (こうじ)スムージー」をはじめ、スナック系の軽食なども各イベントで 販売しました。福井中央公園での「ワンパークフェス」や金津創作の 森での「森のアートフェスタ」、鯖江の「メガネフェス」など県内の大き なイベントにも出店し、利用者様と共にお客様に喜んでいただけるよ うに、いろいろなジャンルの商品を販売しました。イベントではプラ容 器使用の減少に努め、紙包装を増やすなどして環境への配慮にも取 り組みました。



あすわの実、新商品企画!

利用者様と一つひとつ丁寧に焼き、色鮮やかで 魅力的なデザインを施したアイシングクッキーと、 福井市「カメイ珈琲店」の香り高いコーヒー豆を 挽き、丁寧にパッケージしたドリップコーヒー パックを商品化しました。

ドリップパックのパッケージは足羽福祉会の利 用者様のデザインを使用しており、芸術的で趣 深い商品となっておりとても人気があります。

DATA 就労継続支援B型事業(定員35名) 対象利用者 就労意欲のある障がい者(障がいの特定なし) 所在地 福井市栂野町20-5 管理者 髙村 昌裕 (令和6年4月1日現在)



ロスの削減と 工賃アップを目指して

2023年度より本格的に農耕へ挑戦するにあた り、福井県農福連携スタートアップ補助金制度 を活用して、農作業の効率化のための資材を 購入しました。また、(財)福井銀行教育福祉財 団様より食品乾燥機の費用を寄贈していただ きました。規格外野菜や時期的な需要と供給の ミスマッチによる野菜の廃棄を削減するため、 購入した食品乾燥機を使用し、加工品販売に 向けて試作を行うなど、利用者様の働きやすさ や工賃アップのための新たな取り組みを開始し ました。



DATA

事業内容

就労継続支援B型事業(定員40名)

就労意欲がある障がい者(障がいの特定なし) 所在地

福井市米松2-6-28

管理者 渡辺 順子

(今和6年4月1日現在)

次年度に向けた 取り組み

新商品企画や販路拡大を目指し、利用者様の作業メ ニューの選択肢を増やしながら、平均目標工賃月額が 40,000円以上となるよう、今後も取り組んでいきます。 また、職員のKPIの取り組みとして業務の中での見え る化・データ化を意識しながら、具体的な改善目標を 持てるようにしていきます。

次年度に向けた 取り組み

農業作業は、新たにビニールハウス2棟を利用して 年間通して野菜栽培を行います。そのため、新たに農業 作業を行う利用者様を増やし、販売先を新規開拓し、工 賃アップをめざします。また、戦力アップを図るため、利用

者様、職員共に意欲的に取り組める環境作りに加え、 積極的にホームページ等を利用し、生き生きとした利 用者様の活動状況を定期的に発信し、選ばれる事業 所作りを目指します。

パステル

障がいに関して、成人期以降の支援はまだまだ不 十分であると言えます。特に見えにくい障がいに ついては長い目で向き合うことが大切です。関係 機関等と連携しながら、ご本人と支援者との信頼 構築をつくり、ご本人やご家族の思いに寄り添い ながら支援しています。

障がい福祉サービスの生活介護事業として、利用 者様の日中活動では、事業所内での軽作業や創作 活動、屋外での社会体験活動や研修旅行などさま ざまな活動があります。軽度~重度まで利用者様一 人ひとりの可能性を求め、意思決定の場を通して ニーズに合った活動提供のお手伝いをしています。

障がい者福祉部門

スマイル

ふれんずの会・ 就職した先輩との交流会

ふれんずの会は、これまでに就職した先輩と就職希望を持っている 利用者様が交流をする場であり、お互いに良い刺激をもらい合いな がら就労意欲を高めています。

コロナ禍のため、3年ほど中止していましたが、今年度はふれんずの 会交流イベントを復活することができました。交流会場では後輩の 利用者様から、先輩に向けてたくさんの質問があり、先輩からは質 問に答えると共に力強いエールを受け取りました。



地域と繋がる第二歩目 ~公民館イベントへの参加~

スマイルでは成和中学校の学生の職場体験受け入れを行っており、積極 的に「障がい理解」「障がい教育」の活動を進めています。今回はその第 二歩目として、東藤島地区の方とユニバーサルスポーツの「ボッチャ」交流 会に参加しました。当日は地区の児童やお年寄りの方など総勢60名が 参加され、年齢や障がいの壁を越えて「ごちゃまぜ」のチームで開始しまし た。「普段、障がいのある方と関わりがないので、貴重な機会になりました。 ありがとうございました。」などの感想をいただきました。少しずつですが確 実な二歩目を踏み出すことができていると実感しました。



就労移行支援開始から1年の今

パステルでは、令和5年1月から就労移行支援を開始しました。約1 年が経ち、現在2名の方が、トライアル雇用に取り組んでいます。就職 が目標ですが、緊張や不安・悩み・期待など、さまざまな思いを抱え ています。これまでの学びと自身の成長に自信を持ち、失敗も学びに 変えて、春には就職の夢が叶うように頑張って取り組んでいます。



季節を感じるイベントを通して 四季の移り変わりを知る

スマイルでは「季節を感じるイベント」を開催しています。6月は 「チューリップの球根を植えよう!」、7月は「七夕さま☆」、11月は「焼 き芋焼けたかな」、2月は「節分」等を開催しました。その都度、イベン ト内容に合わせて事業所内を飾り付けたり、職員が扮装したりと利 用者様の笑顔や歓声を想像して準備します。伝統ある季節行事の開 催により、利用者様も温度や景色・味覚など五感を通して季節を味 わっていただけるように取り組んでいます。



ひきこもりサポート

次年度に向けた

近年、ひきこもり傾向のケースが増加しています。 パステルでは訪問支援をはじめ、本人の困って いることや社会参加への意欲などを回復してい けるよう支援しています。しかし、障がい特性・体 調面・精神面・生活歴など、さまざまな要因があ り、回復と安定までには長い時間が必要になりま す。パステルでは、多機関の支援者様(医療・行 政・相談支援・専門機関・各サービス事業所な ど)と連携し途切れのない支援を行っています。 時間がかかることは多いですが、日中活動に通 えるようになり、社会との接点や意欲回復に繋が るケースも増えてきています。



DATA 事業内容 自立訓練(生活訓練)事業(定員14名)/ 就労移行支援事業(定員6名)/

就労定着支援事業 対象利用者 地域での自立した生活や就労を希望する障がい者

(障がいの特定なし) 所在地

福井市御幸4-1806 管理者

吉野 拓巳



AmuAmu(アムアム)の販売拡大により 「障がい理解 | を拡げていきたい

スマイルでは日中活動の一環としてマット編みを利 用者様に提供させていただいており、完成したマッ トは「AmuAmu(アムアム)」という商品名で、カフェ やパン屋さん等で販売しております。また、近隣地 域で開催される文化祭やバザー等にも積極的に 出店しております。購入された方からは「障がいの ある人がこれを編んでいるの?凄いわね!」「しっか り作りこまれていて丈夫で良いわ。」等の感想をい ただいています。利用者様のさまざまな可能性を、 一つの作品という形にして少しでも多くの人に知っ てもらうことが、「障がい理解」の大きな一歩と考え ています。これからも販売拡大を進めていきます。

DATA

事業内容 生活介護(定員30名)

対象利用者

軽作業や余暇活動を通して生きがいを つくりたい障がい者(障がいの特定なし)

福井市和田東1-2105 管理者

惠美 淨文

(令和6年4月1日現在)

パステルの利用開始時期やスタート地点は問いません。今より、 少しでも自立度を高めたい方や、就職希望がある方に寄り添い、 希望の実現に向けた支援を行います。就職がゴールではなく、就 職後も職場に定着できるようサポートしていきます。





(令和6年4月1日現在)

次年度に向けた 取り組み

スマイルでは、利用者様の特性に合わせて個別のスケジュー ルづくりや構造化による支援を取り入れています。今後は、構 造化の幅を広げるために、「体力づくり」に着目した活動の提供 を取り入れていきます。そして、小グループで行える創作活動や

体験活動の充実にも力を入れていきます。また、重度利用者 様の受け入れでは、関係機関との連携によりニーズの早期把 握に重点を置き、実習受け入れの取り組み時より「質の高い 支援の提供」「本人中心の支援の提供」を目指します。

取り組み

カラフル

障がい福祉サービスの生活介護事業所として、主に 高齢の方や重度障がいの方の日中活動において健 康でリズムある充実した生活づくりに取り組んでいま す。特に、地域に出向く活動に力を入れており、散歩 でのあいさつや駅舎の清掃、ボッチャ交流など利用 者様と地域との「笑顔」のつながりが生まれています。

障がいのある方の就学、進路、住まい探し、地域移行 への対応などについて、ご本人やご家族などの相談 に応じさせていただきます。その中で、情報提供や サービスの利用に関する支援を行い、関係機関と連 携して利用者様が望む暮らしの実現に向けて取り組 みます。

障がい者福祉部門

あすわ 相談支援事業所 リアン



利用者様が1日でも長く 健康に笑顔で過ごせるように

カラフルには高齢の利用者様がたくさん利用されており、年を重ねる ことにより今まで通りに身体が動かなくなり、怪我に繋がるリスクが増 えてきます。現在、対策の一つとして、理学療法士が中心となり利用 者様の個別のメニューを計画し、日々の活動として機能訓練を実施 しています。みなさんがリハビリの時間を楽しみにされており、「肩が 楽になったわ。ありがとう。」「今日の散歩は楽しかったわ。」等の感想 をいただいています。利用者様が1日でも長く健康に、笑顔で過ごす ことができればと考えています。



グループホーム(GH)からの卒業

長年施設等を利用している方は、本人発信の希望が薄れがちになりま す。そんな中、GH職員に「一人暮らしをしたい」という利用者様の相談

ご本人の強みや想いを確認し、本人が安心できるよう関係者での打ち

地域に根差した事業所づくりを目指し、 地域と共に創る「福祉のまちづくり」

カラフルでは地域と共に創る「福祉のまちづくり」の一環として、東藤島地区の 方々と共に、ユニバーサルスポーツの「ボッチャ」による交流を行いました。当 日はカラフル利用者様やスマイル利用者様、東藤島地区のお年寄りの方、さ くらんぼ児童クラブの子どもたちに加え、東藤島公民館職員、ボッチャ協会職 員の総勢60名の参加となりました。スタート時はお互いに緊張する様子もあ りましたが、ゲームが進むにつれて、ハイタッチをしたり、ボールの投げ方のコ ツを教え合ったりと笑顔が増えていきました。参加された方からは「得点が いっぱい取れて楽しかった。」「年齢や障がいの有無など関係なく、楽しく参 加できました。これからも続けてもらいたい。」等の感想をいただきました。





利用者様の「思い」を尊重して、 意思決定支援を推進する

カラフルでは毎年1回、研修旅行を実施しており、利用者様 にさまざまな経験をしていただく中で、意思決定の場面を 作っています。石川県の「ゆのくにの森」に出かけて、「紙漉 き」と「オルゴールづくり」の体験を選択していただきました。 「できた!」「やった!」等の感激の言葉が飛び交い、今まで 経験したことのないことにチャレンジする楽しさを満喫され ていました。今後も意思決定支援を含め、利用者様の意思 を汲み取れる活動を開催していきます。

DATA

事業内容

生活介護(定員30名)/共生型生活介護 対象利用者

軽作業や創作活動を通して生きがいをつくりたい 障がい者(障がいの特定なし)

所在地

福井市林町62-3 管理者

惠美 浄文

(令和6年4月1日現在)

施設入所からの移行

~ 「やりたい」を信じた意思決定支援と連携の大切さ~

入所施設で暮らしている精神疾患のあるA様。将来は、農業を生業として、ゆったりとした暮 らしをしたいと考えていました。施設職員から私たち相談支援事業所に連絡が入り、A様の 希望(夢)を第一と考え、まずは、日中の活動先で農業ができるところを見学・体験しました。 2か月程、就労継続支援A型事業所で農業体験・実習を行い、その頑張りと真面目さで、就 職が決定。その後、暮らしの場は、GHへ移行。今のA様の目標は、自分一人でも何かしらの 作物を育て、それを販売してお客さんの笑顔を直接目にすることだそうです。私たちは本人 の強み、得意なことは何なのかなど、適切に見極め、どう意思決定支援をしていくかが大切 だと感じています。すべてにリスク管理をするのではなく、「時に失敗をしても大丈夫、私たち が支えます」という安心体制を築くことで地域移行は難しいものではなく、やりがいのあるも の、何より利用者様の活き活きとした表情が見られる醍醐味となっています。

精神科病院からの退院

~地域移行支援とは?基本を考える~

精神科病院等からの退院促進(地域移行)は、国の方針もありスタ ンダードなものとなりつつあります。しかし、住まいの場を確保すれ GHに入居したBさん。「働いて社会の一員となりたい」という夢はあ りますが、これまでたくさんの離転職を繰り返し、自信・やる気を喪 失。とにかく「サポーターがほしい。」「僕の思いを理解し、つまずきそ うな時に支えてほしい…」という願いの中、福祉サービスにおける 複数の就労系事業所を見学し、今春からは就労事業所に通い訓 練を受ける予定です。「促進」や「移行」「地域生活」等の言葉だけ が一人歩きをして本来の目的が薄れつつある中、「暮らす」「働く」 「遊ぶ」などといった当たり前を前提とした支援(相談)に気づかせ てくれたBさん。Bさんの次なる目標は、「目一杯遊ぶ」ことです。とっ ても大切なことで、私たちも目一杯サポートしていきます。



~利用者様のニーズが制度を作る~

が寄せられました。

合わせや宿泊体験・会議を経て、この春、晴れて一人暮らしを始める予 定の利用者様がいます。折しもGHから一人暮らしに移行する方への 加算が今春新設される予定です。利用者様の要望を丁寧に形にしてい くことが正当に評価される体制になってきているように感じます。



ば、地域生活をしていると言えるでしょうか。精神科病院を退院して、



DATA

事業内容 計画相談支援/障害児相談支援/ 地域移行支援/地域定着支援

対象利田老 相談支援を必要とされる方(障がいの特定なし)

福井市米松2-6-28

管理者 渡辺 順子

(令和6年4月1日現在)

次年度に向けた 取り組み

令和4年度に開始した共生型通所介護事業に、現在6名の利用 者様が利用されています。今後も介護認定を受けても「元気な間 はカラフルで活動したい」という利用者様のニーズは増えてくると 考えています。そうした利用者様の思いに応えるべく、健康増進や、

ADL能力維持の向上に繋がる活動に取り組みます。また、地域交 流の継続から、開かれた事業所になれるように地域活動発信に 力を入れていきます。学卒者から高齢の方まで元気に活躍できる 場の提供を通して、笑顔あふれる事業所づくりを目指します。

次年度に向けた 取り組み

利用者様当事者を支える制度は充実し、支えるための事業所は 年々増え続けています。また、取り巻く社会情勢も激しく変化して います。しかし、私たち相談支援専門員は、利用者様(ご家族を含 む)の声に耳を傾け、真のニーズに合わせたサービス調整をしていく 必要があると考えています。改めて、制度や事業所、社会のありさ まに利用者様を合わせるのではなく、利用者様のニーズに私たち が変わっていく、寄り添っていくという基本的相談支援の在り方を 心に置きながら相談継続していきます。

足羽更生園

重度の障がいがある方の施設入所支援を中心に、 安全安心の支援を提供しています。日中活動では個 別の環境調整・小規模グループ化・社会参加の機会 充実、暮らしの場では余暇の充実・地域移行支援な ど、一人ひとりの望む暮らしの実現に向け「共に」取り 組んでいます。

障がいの軽重にかかわらず「地域社会の中で自分ら しい暮らしがしたい という思いの実現のため整備を 行ってきました。住まいのある地域社会との交流や社 会体験、日中を過ごされる事業所等との連携、充実 した生活支援を通して、一人ひとりにとってやすらぎ のある「自分の家」となるよう努めています。

障がい者福祉部門

あすわ第1 あすわ第2 あすわ第3



地域コミュニケーション 促進の取り組み

9月に園内地域交流スペースを利用し、地域の困りごとやニーズを知 ることを目的とした地域交流イベント「うちにきてみーね」を開催しまし た。宿布、前波地区より11名の方にご参加いただき、一緒に落語や ハンドベルの演奏を楽しんだ後、「気軽におしゃべりタイム」として座 談会を実施しました。お茶菓子を手に、防災や福祉サービスに関する 心配ごとから次回開催へのご要望まで、地域のみなさんの広いご意 見を伺えて楽しいひと時となりました。



あすわ第1 久しぶりの「良い湯だな~」 「美味しいね~」

3年ぶりに温泉外出に出かけました。コロナ感染対策による非日常か ら、5類への移行を受け、いつもの日常が戻ってきました。グループ ホームの仲間たちと温泉や豪華な料理を楽しんできました。今年は県 内での日帰り外出でしたが、来年はぜひ北陸新幹線に乗って県外の 温泉一泊旅行を楽しみたいですね。



今年度は、利用者様の意思決定支援の一環として、「選択」の場の提 供に努めました。何種類もの握り寿司を準備した「寿司祭り」や「模擬 店祭り」、クリスマス会では「ワールドビュッフェ」と銘打って和・洋・中 のバイキングを準備しました。利用者様にとって特に関心のある食事 面で、自分の意思に沿って「選択」できる機会を作りました。何を食べ ようかと目を輝かせながらいろいろな食材を見比べる利用者様の顔 は笑顔で溢れていました。



あすわ第2

CO2排出削減に取り組みます!

利用者様の通院支援が多くなり、公用車のやりくりが大変になってきた ことから、電気自動車を9月に購入しました。運転は他の軽自動車とな んら変わりません。自事業所に取り付けた充電用コンセントから約5~ 10時間かけてゆっくりと充電を行っています。「足羽川ふれあいマラソ ン」でも後尾車として走行しました!また、グループホームこもれびでは、 太陽光発電パネルを取り付けました。2024年3月12日からいよいよ発 電開始となります。どのくらい発電できるのか楽しみです!







福祉サービス第三者評価受審

10月に5回目となる福祉サービス第三者評価を受審し ました。利用者様の権利侵害防止への取り組みとして毎 月、身体拘束適正化委員会や虐待防止委員会などの 実施や適切な支援や制度・倫理観を学ぶために園内研 修などの機会を設けています。また、SNSを活用し、施設 としての取り組みを積極的に広報している点などについ て、特に高い評価をいただきました。今回の結果に慢心 することなく、今後も課題改善に向けた取り組みを継続 してまいります。

DATA

事業内容

障がい者支援施設 ①施設入所支援(定員60名)

②牛活介護事業(定員60名) ③短期入所支援(定員4名)

④日中一時支援(定員5名)

施設支援を必要とする障がい者(障がいの特定なし) 所在地

福井市宿布町19-46-1 管理者

対象利用者

嶋田 富士男

(令和6年4月1日現在)



あすわ第3 家庭菜園、 頑張っています!

花や緑を増やし、利用者様が和める家づくり に取り組んでいます。玄関には色鮮やかな 花が咲き、訪れる方たちを出迎えてくれてい ます。野菜づくりにも挑戦し、畑仕事の経験 がある世話人に教えてもらいながら利用者 様も水やりや草むしりなどのお世話をしてく れています。見事に育った野菜はみんなで 収穫し、サラダや菜飯・煮物などにして日々 の食卓を彩ってくれています。

DATA

事業内容

共同生活援助 3事業所(グループホーム17か所) ○あすわ第1 グループホーム4か所(総定員37名) ○あすわ第2 グループホーム8か所(総定員62名)

○あすわ第3 グループホーム5か所(総定員39名) 短期入所

○たんぽぽ短期入所(定員2名) ○あすわ短期入所(定員4名) ○ひまわり短期入所(定員2名)

地域で自分らしく暮らしたい障がい者

(障がいの特定なし)

福井市栂野町20-5 管理者 あすわ第1 平澤明

あすわ第2 吉村 宜利子 あすわ第3 荒川 待子

(令和6年4月1日現在)

次年度に向けた 取り組み

関係機関との連携を図り、各種体験(GH・生活介護) を通して、その人らしい暮らしをみんなで考え、取り組 む(支える)実践に取り組みます。

さまざまな経験の提供やアセスメントを通じた利用者 様の意思決定支援に取り組み、利用者様の思いを引 き出せるよう取り組みます。

次年度に向けた 取り組み

一人暮らしを望まれている利用者様をはじめ、個々が望 む暮らしの実現に向け、環境整備やご本人を取り巻くネッ トワークの構築に取り組みます。

利用者様個人の非常用持ち出し袋や備蓄品の整備など、 災害への備えをさらに強化します。

利用者様の重度・高齢化に対応するため法人内高齢化 部門との連携や支援力の向上を目指します。

愛全園

出かけて安心、過ごして満足、相談にも親切、丁寧な サービスの提供を心がけています。日常の介護はもち ろん、健康への看護とおいしい食事には特に気を配っ ています。さらにこれからは、在宅からご利用の方、入 居されている方一人ひとりの状態をしっかり見て、その 方に適した生活活動の向上への介護に取り組みます。

当苑は、特に認知症高齢者介護を使命としており、 満足度の高いサービス提供で介護にかかってい ます。安全で親しみやすく家庭的な雰囲気を創造 し、親切丁寧、敬愛の念を持ち、利用者様の笑顔 や残された能力を引き出し、安心できる暮らしを 支援していきます。

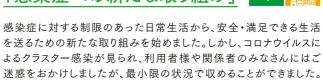
足羽利生苑

高齢者福祉部門



安全な暮らし

「感染症への新たな取り組み



よるクラスター感染が見られ、利用者様や関係者のみなさんにはご 迷惑をおかけしましたが、最小限の状況で収めることができました。 職員・関係者の協力と連携のもと、ご家族との親しみを持った面会、 積もり積もった思いを伝え合える喜びの時間が持てるようになりまし た。また、活動の範囲も増えて、季節の行事も再開しました。久しぶり に利用者様や職員の笑顔が見られました。



足羽利生苑では、地域の移動スーパーとの連携により利用者様の買 い物支援を実現しました。

移動スーパー「とくし丸」は週2回の来苑時に利用者様・ご家族の希 望に応じた買い物の楽しみと笑顔を提供してくれて、地域との繋がり を深めていただいています。また、「いつものおばあちゃん来てくれて いるかな。」とドライバーさんにとっても楽しい交流の場となっていま す。今後も継続的に活用しながら地域との交流を深めていきます。



地域との防災対策の取り組みを訓練!

足羽利生苑は福祉避難所としての役割を担っており、その一環とし て10月20日に炊き出し訓練を行いました。

給水作業や調理準備を行い、備蓄しているアルファ米を蒸らし、おか ゆや卵スープ及び栄養状態により補助食品の準備など本番さなが らに調理しました。災害発生時には地域からの避難が必要な人へ の受け入れが重要です。地域関係者と共に役割分担し、安心して避 難できる体制構築に向けた話し合いと訓練の課題解決の取り組み を進めていきます。



新しい仲間(新任職員・留学生)

今年度新たに17名の職員が愛全園で働くことになりました。介護職 員10名(正規/4名、パートタイム/1名、派遣/3名、留学生/ 2名)、看護師(正規)2名、看護助手(派遣)1名、ケアマネジャー(正 規)2名、事務員2名(パートタイム/1名、派遣/1名)と、利用者様 と生活を支えることに一生懸命取り組んでいただいています。介護福 祉士を目指して足羽福祉会で働く外国人のスタッフは14名です。 2024年2月にみんなでボウリング・食事・永平寺観光を行い、連携・ 親睦を深め楽しい1日を過ごしました。



DATA

従来型介護老人福祉施設(定員30名)/ 短期入所生活介護(定員35名)/ 通所介護(定員25名)/居宅介護支援事業所/ 認知症対応型共同生活介護(定員9名)

65歳以上の高齢者(第1号被保険者)及び 40歳~64歳までの医療保険加入者(第2号被保険者)

福井市丸山町40-7

山本 耕右

(令和6年4月1日現在)



未来に向けて (実習生受け入れ)

福井農林高等学校,医療福祉専門学校, 警察学校・大東中学校のみなさんが、愛全 園で体験・実習を行いました。各々利用者 様との関わりから学ばれたことの振り返り から、みなさんや地域の将来に向けた取り 組みのお手伝いができたと実感し、嬉しい 気持ちになりました。これからの大切な未 来に向かって頑張ってください。

ユニット型介護老人福祉施設(定員60名)/

対象利用者

所在地

管理者



充実した1日となり、リフレッシュ作戦大成功!



令和6年2月12日、愛全園7名・足羽利生苑7名の共 に働くフィリピン人スタッフの激励交流会を行いました。 午前中はボウリングと卓球で汗を流した後、とんかつ 味処「くら」で昼食を取り、午後からは曹洞宗の大本 山「永平寺」を観光し、日本の文化や歴史に触れまし た。その後、ボウリングが初めてというスタッフがほとん どだった中、みんなで大はしゃぎしました。永平寺でも そうでしたが、各々がスマホで写真をたくさん撮ってい ました。バスでの移動中、帰りのお土産屋でも会話は 途切れることなく、終始笑顔が絶えることのない1日と なりました。この企画の目的であるDE&Iの推進と心 身のリフレッシュは十分達成と言えると思います。次年 度も第二回交流会の開催をぜひ!

DATA

事業内容

介護老人福祉施設(定員59名)

※介護予防/短期入所生活介護(定員15名)/

通所介護(定員20名) ※福井市日堂生活総合事業通所型A型・

通所型予防給付相当含む/

地域密着型介護老人福祉施設(定員18名)

※介護予防/認知症対応型通所介護(定員12名)

/居宅介護支援事業 対象利用者

要支援•要介護高齢者

所在地

福井市栂野町20-7 管理者

岩本 昌雄

(令和6年4月1日現在)

次年度に向けた 取り組み

サービス提供を目標に、より細やかな情報収集、アセスメント りのレベルアップに加えて、職員同士が連携および多職種で に繋がる職場環境づくりを推進します。

令和6年度は、利用者様により満足して、喜んでいただける 取り組むチームケアを実践します。また、働く職員が、達成感、 満足・充実感を得られるよう、日々の取り組みを定期的に振 を行いケア内容の充実、向上に取り組みます。職員一人ひと り返りを行い、自分の役割や責任を意識し、モチベーション

次年度に向けた 取り組み

令和6年度事業計画目標である、ACP理念の実現を目指 した取り組みを進めていきます。また、居宅サービス(居宅介 護支援・デイサービス・ショートステイ)から施設入所サービス 事例を増やしてまいります。

へとその人の思いを受け継ぐ連携体制を構築し、晩年の 暮らし方の充実を目指し、チーム支援による取り組み実践

グループホーム 美山

「美山で育ち、美山で暮らす…」利用者様の想い に応えるため、2つの事業で地域での生活を支援 しています。特に「地域と共に」を念頭に置き、「地 域に出向く」「地域を招く」の双方向の交わりを大 事にし、「地域密着型施設 | として地域に信頼され る施設を目指しています。

地域にお住まいの高齢者様が、住み慣れた地域 で安心して暮らし続けることができるよう、さまざま なお困りごとに対して「主任ケアマネジャー」「社会 福祉士」「保健師」などが中心となって、互いに連 携をとりながら「チーム」として総合的に支援を 行っています。

高齢者福祉部門

福井大東 包括支援センター (ほやねっと大東)



実現!みんなで温泉旅行

認知症対応型共同生活介護の入居者9名と職員7名で一泊二日の 温泉旅行に出かけました。コロナ禍で外出もままならなかった中、令 和5年度はなんとか企画をし、実施したいと準備を重ねました。内容 は、道の駅「恐竜渓谷かつやま」と「丸岡温泉たけくらべ」への旅行 です。道の駅では童心に戻って滑り台をしたり、宿泊施設の受け入 れも良く、温泉を堪能し、夕食では舌鼓を打ったりできました。限られ た時間でしたが、貴重な思い出になったみたいで良かったです。



(啓蒙地区)

2年前から啓蒙地区の課題である、一人暮らし高齢者の中で地域との 繋がりが希薄でSOSを出せず、相談に辿り着きにくい現状に対して取り 組みを実施してきました。今年度はさらにアウトリーチを進めました。関係 機関と会議を重ね、また民生委員や自治会会長・福祉委員さんと一緒に 地域の課題として意識してもらい、情報を共有し、一緒に訪問も行ってい ます。SOSを出せない人のそばに出向く姿勢を大切にしました。この取り 組みは足羽福祉会サービス実践者報告会で報告をいたしました。



カフェでも遠足!

グループホーム美山では地域住民の交流の場として「地域交流カ フェ」を月に2回開催しています。毎回、十数名ほどの参加者が来訪 し、カフェ支援代表の家接ご夫妻のさまざまな企画で楽しいひと時を 送っています。今年度はカフェ遠足と銘打ち「たけふ菊人形」に出か けました。OSK日本歌劇団の公演を鑑賞し、昼食は越前たけふ駅の フードコートで会食しました。ついに福井の北陸新幹線が延伸・開業 しましたね。来年度はどこに出かけられるか今から楽しみです!



誰一人取り残さない取り組み

(東藤島地区)

東藤島地区では、「災害時の各組織・機関との役割理解と連携の在り 方について」と題し、地区の自主防災組織連合協議会・自治会連合 会・民生委員・地区社協・市社協・行政・介護支援事業所・地区障が い支援相談事業所が会議を開きました。全員で地区の防災対策の現

状を理解し、各団体の立場から、どの機関と 連携し、どういう動きをすると災害時の避難や 備え、安否確認などがスムーズに安全にできる のか話し合いました。次回はさらに具体的に 検討を重ねていきます。



地域交流で繋がる

人と人の輪

今年度は、地域のこども園や小学校・中学 校との交流も盛んになりました。子どもや、 生徒さんの活動応援や、グループホーム美 山にもお招きし、久しぶりの交流が広がりま した。また、地域行事の再開もあり、自治会 の「芋煮会」や「美山そば祭り」にも出かけ て楽しむことができました。子どもからお年 寄りまで、さまざまな交流を通して、人と人と の繋がりが深くなることを実感できました。

DATA

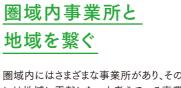
認知症対応型共同生活介護(定員9名)/ 小規模多機能型居宅介護事業所(定員29名)/ その他緊急時対応短期利用(各1名)/ 共生型生活介護 • 短期入所 対象利田者

要支援•要介護高齢者

所在地 福井市美山町6-1 管理者

藤原 行順

(令和6年4月1日現在)



圏域内にはさまざまな事業所があり、その中 には地域に貢献したいと考えている事業所 も多いです。その取り組みとして、地域の高 齢者の集まりで予防教室の手伝い、認知症 普及月間では一緒にキャンペーンに参加、 地域行事では模擬店を一緒に行ってもらう など、いろいろなことを実施しました。事業 所さんにも地域の方の生の声や姿を感じて もらえる機会となったようです。今後も継続し て、一緒に地域づくりができればと思います。



DATA

事業内容 地域包括支援事業/

介護予防支援・介護予防ケアマネジメント事業

地域住民 65歳以上の高齢者(第1号被保険者)

福井市丸山町40-7 愛全園3F

管理者 浅川 なお美

(令和6年4月1日現在)

次年度に向けた 取り組み

コロナ禍と言われてから4年の月日が経ちま した。昨年、感染症法上の分類が変わり生活 様式にも変化があった1年でした。そうはいって も高齢者は感染リスクが高いのも事実です。できることを大事にしていきます。

私たちはこの期間にさまざまなことを学びまし た。今後も、感染対策はしつつも生活の質を 落とさず、人と人が繋がって、人の営みが充実

次年度に向けた 取り組み

地域を繋ぐ

としてスーパー・地域の催しなどでの相談会や ものにしていきます。しっかりと住民のみなさんの こちらから出向いての訪問を継続していきます。 状況と声を大切にしながら進めていきます。

住民さんの近くで安心して相談できる環境づくりまた、災害時の包括のBCPを実情に近づけた